

三島森田病院

第9回 ホスピタリティ コンサート

音楽療法として、言葉を介さず一流の音楽により、心と身体の調子を整え
感動を体験することを目的としてコンサートを開催します

三ツ木 摩理 & 山田 剛史 Violin & Piano Duo Concert

Program

L.v.ベートーヴェン：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ 第5番 へ長調『春』Op.24

K.シマノフスキ：ヴァイオリンとピアノのための3つの詩曲『神話』Op.30 より

・第2曲〈ナルシス〉・第3曲〈ドリアードとパン〉

～休憩～

J.ブラームス：ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調『雨の歌』Op.78

M.d.ファリャ：スペイン民謡組曲（コハンスキ編曲）より



三ツ木 摩理 / ヴァイオリン



山田 剛史 / ピアノ

2024.12.28(土)

開場 13:30 開演 14:00

長泉町文化センター
ベルフォーレ ホール

入場無料 全席自由 事前申込等不要です

入場対象者 乳幼児を含めどなたでも入場できます

◎お問い合わせ先 三島森田病院 TEL：055-986-3337



■ 主催 三島森田病院 ■ 後援 長泉町

三島森田病院の森田療法とは

森田療法は、東京慈恵会医科大学 精神科の初代教授であった森田正馬（もりたまさたけ）が100年前に創始した神経症（不安症・強迫症等）に対する日本発の精神療法であり、現在の当病院の理事長・院長 森田正哉はその曾孫にあたります。本療法は薬物によらず症状を「あるがまま」に受け入れることで健康な日常生活を回復させていきます。本療法では、神経症の根底にある不安や死の恐怖は自然な感情であり、より良く生きようとする人間本来の欲望（生の欲望）と表裏一体の関係にあるものと理解します。にもかかわらず神経症の患者さんは、自己の不安を排除することに努力を傾ける結果、かえって不安が増幅し症状にとらわれていきます。本療法の核心は、このようなとらわれを打破することであり、太陽の光を浴び土に勤しむ農業や工芸を通じて生活のリズムを取り戻し、患者さんが自己の不安も生の欲望も自然な人間性として受容し、「あるがまま」の自己を現実にかたしていかれるよう治療していきます。尚、当初は神経症が対象とされておりましたが、ストレスの多い現代社会において薬物療法では限界のある難治といわれる多彩な症状に対しても、病態によっては本療法の効果が確認されております。

出演者 Profiles

三ツ木 摩理（みつぎ まり） ヴァイオリン



桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部を卒業。同大学研究科修了。ヴァイオリンを春山みどり、上西玲子、辰巳明子各氏に師事。草津夏期国際音楽アカデミー・室内楽奨学金を2回授与される。MMCK ミュージック・マスターズ・コース in かずさ（大友直人、アラン・ギルバート氏ら芸術監督）にて世界各地から集まった演奏家とともに各地で演奏会に出演。オペラのコンサートマスターとしても活躍。日本人女性で初めてワーグナー《神々の黄昏》のコンサートマスターを務める。ソリスト、室内楽奏者として活動する傍ら、現代音楽を含めたレクチャーやダンスとの共演に力を入れている。アレクサンダー・テクニーク、解剖学、フェルデンクライス・メソッドを学び、身体的な面からの演奏指導を行っている。

山田 剛史（やまだ たかし） ピアノ



東京藝術大学大学院修士課程を首席で修了、クロイツァー賞受賞。ロームミュージックファンデーションの奨学生としてケルン音楽大学に留学、国家演奏家試験に合格。2007年第5回東京音楽コンクールピアノ部門第1位および聴衆賞受賞。ソリストとして秋山和慶氏指揮東京交響楽団はじめ共演多数。室内楽・歌曲伴奏にも定評があり、東京オペラシティ「B→C」、東京・春・音楽祭等に出演。古楽の基本理念を背景としたJ. S. バッハの演奏解釈に定評がある一方、テッセラ音楽祭「新しい耳」での意欲的なリサイタルが話題を呼ぶ。CD「モダン・エチュード」（レコード芸術誌特選盤）。国立音楽大学および東京学芸大学非常勤講師。秋吉台ミュージック・アカデミーにてマスタークラス講師。

- ・第10回公演：2025年1月13日(月・祝) ピアノ ソロ (長泉町 ベルフォーレ ホール)
- ・第11回公演：2025年5月17日(土) チェロ&ピアノ (三島市民文化会館 大ホール)